

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地		
愛知ペット専門学校		平成20年2月22日		牧 良		〒 444-0007 (住所) 愛知県岡崎市大平町川田58番地1 (電話) 0564-64-7225		
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地		
学校法人アイピーシー学園		平成20年2月22日		牧 良		〒 444-0007 (住所) 愛知県岡崎市大平町川田58番地1 (電話) 0564-64-7225		
分野	認定課程名	認定学科名		専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度		
文化・教養	文化・教養専門課程	プロトリーマー科		平成21(2009)年度	-	平成26(2014)年度		
学科の目的	プロトリーマー科は、ペット産業等の社会に広く貢献し得る有能な人材として、主に犬猫の美容業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成することを目的とする。							
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	主に犬のグルーミングおよびカッシング技法を学ぶ。日本動物専門学校協会トリマー1級・2級・3級、ペットスタイリスト国際協会ブロンズ・シルバー、ほか							
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入	1,905 単位時間 単位	240 単位時間 単位	75 単位時間 単位	1,590 単位時間 単位	— 単位時間 単位	— 単位時間 単位
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)	中退率			
40人	58人	0人		0%	0%			
就職等の状況	■卒業生数(C)		27人					
	■就職希望者数(D)		25人					
	■就職者数(E)		25人					
	■地元就職者数(F)		24人					
	■就職率(E/D)		100%					
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		96%					
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		93%					
	■進学者数		1人					
	■その他							
	特になし							
(令和5年度卒業生に関する令和6年5月1日時点の情報)								
■主な就職先、業界等								
(令和5年度卒業生)								
ペット業界、トリミングサロン など								
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: ※有の場合、例えば以下について任意記載		無		評価結果を掲載したホームページURL			
当該学科のホームページURL	https://aichipet.com/?p=8960							
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A:単位時間による算定)							
	総授業時数			1,905 単位時間				
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数			630 単位時間				
	うち企業等と連携した演習の授業時数			0 単位時間				
	うち必修授業時数			1,270 単位時間				
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数			420 単位時間				
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数			0 単位時間				
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)			30 単位時間				
	(B:単位数による算定)							
	総単位数			単位				
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数			単位				
	うち企業等と連携した演習の単位数			単位				
	うち必修単位数			単位				
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数			単位				
	うち企業等と連携した必修の演習の単位数			単位				
	(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)			単位				
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者		(専修学校設置基準第41条第1項第1号)		3人			
	② 学士の学位を有する者等		(専修学校設置基準第41条第1項第2号)		0人			
	③ 高等学校教諭等経験者		(専修学校設置基準第41条第1項第3号)		0人			
	④ 修士の学位又は専門職学位		(専修学校設置基準第41条第1項第4号)		0人			
	⑤ その他		(専修学校設置基準第41条第1項第5号)		0人			
	計				3人			
上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数				3人				

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

近年ペット産業を取り巻く分野において、めまぐるしく変化し、且つ進化し続ける市場を背景に、学校教育法(第124条)における「専修学校の目的」に鑑み、その専門分野において市場が求める実践的な知識・技術・技能を十分に認知するべく本学科が目指す職業教育に関連した企業と組織的に連携して必要十分な授業科目を創設していくこととし、またその実施に当たっては、当該専門課程の教育にふさわしい授業方法への改善・工夫を行った上で教育課程を編成することとする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

プロトリーマ科が目指す職業教育における関連事業の企業と連携し、同企業より当該課程の関連する専門分野に精通した各役職者等を構成員とした「教育課程編成委員会」を学校内に組織し、委員会の方針に沿って科長は編成を行い、学校長の許可を得てから当年度の実績及び履行がなされるものとする。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和6年6月1日現在

名前	所属	任期	種別
脇田 亮治	一般社団法人全国ペット協会 専務理事	令和6年4月1日～令和7年3月31日(12年目)	①
宇野 哲安	有限会社宇野獣医科 院長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(12年目)	③
岩本 英司	株式会社アイピーシー 営業部部長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(12年目)	③
大槻 祐介	株式会社アイピーシー 事業管理次長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(12年目)	③
川瀬 理英子	株式会社アイピーシー ペットコミュニティプラザ日進店 副係長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(2年目)	③
上 舞子	株式会社アイピーシー わんわん動物園主任補佐	令和6年4月1日～令和7年3月31日(3年目)	③
牧 良	愛知ペット専門学校 学校長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(12年目)	—
栗田 晶子	愛知ペット専門学校 教務主任兼ドッグトレーナー科科长	令和6年4月1日～令和7年3月31日(12年目)	—
細川 綾子	愛知ペット専門学校 プロトリーマ科科长	令和6年4月1日～令和7年3月31日(12年目)	—
金 天志	愛知ペット専門学校 ナーシング&トリミング科科长	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年目)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(8月、3月)

(開催日時(実績))

第1回 令和6年8月22日 14:00～15:00

第2回 令和7年3月27日 14:00～15:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

①「あいさつ評価システムの導入は、学生自ら意識しやすくなった。」というご意見を受け、学生の意識の向上を目的に教員自ら率先して、指導強化を図る。

②朝のHRの際に、全員で挨拶声出し及びお辞儀の練習をしている。また、トリマー科ではカットモデル犬を受け入れており、一般のお客様との受付の接客が出来る機会が多い。このような場だからこそ大きな声、笑顔、丁寧な言葉遣いを意識してできるように指導の強化している。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

ペット産業界が求める知識及び技能を的確に反映すると共に、社会人としての基礎能力の向上を重視した教育を行う為、積極的に企業等へ学習活動の協力を求め、より実践的な専門性の確保を目的として学習機会（企業内実習、企業参加の学内実習活動等）を設定する。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

企業と学校の打ち合わせ等により企業やペット業界のニーズに沿った実習内容や評価方法を設定し、企業からの派遣講師による授業の実施または企業等における実習等を実施する。学生はその日に受けた指導内容、自己評価等を実習日誌等に記載、定期的に学校の教員が確認し、必要に応じて研修や試験等を実施する。さらに企業と事前に打ち合わせた基準あるいは評価に基づき、学校の教員が成績評価及び単位認定を行う。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	企業連携の方法	科目概要	連携企業等
インターンシップ	4. 【校外】企業等が主催するインターンシップ等（学科が主体的に企画していないものを指す。）	連携する企業であるわんわん動物園やペット美容室等で実務研修を行う。	株式会社アイピーシー
専科実習	5. その他※具体的な連携方法を科目概要欄に記述すること。	連携企業等より提供された生体で、犬のベーシック、グルーミングテクニックに関わる授業で、学生1人あたり30種を経験させる事を目標とする	株式会社アイピーシー
トリミングテクニックⅠ	5. その他※具体的な連携方法を科目概要欄に記述すること。	連携企業等より提供された生体で、犬のケア及びグルーミング、トリミングテクニックを強化する	株式会社アイピーシー
トリミングテクニックⅡ	5. その他※具体的な連携方法を科目概要欄に記述すること。	連携企業等より提供された生体で、犬のケア及びグルーミング、トリミングテクニックを強化、時間短縮から1日2頭以上のグルーミングを実践させる事を目標とする	株式会社アイピーシー
エステティックテクニック	3. 【校外】企業内実習（4に該当するものを除く。）	わんわん動物園が保有する老齢、疾病などより皮膚被毛にトラブルが生じた生体に対するアイチエイジングに取り組む	株式会社アイピーシー

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

「研修委員会」を設置し、最低でも年2回会合を実施することを規定に定め、最新のペット業界の動向等を把握し、必要な研修等を計画、実施する。例えば、本学科においては犬猫などのペットエステ業界を把握するために、積極的に勉強会や研修を実施する。また、スピードトリミング技法の取入れを強化し安全なトリミングを第一に頭数アップを目指す明確な指導を努める。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	ペットエステティック	連携企業等:	株式会社アイピーシー
期間:	令和5年6月23日～令和6年2月28日	対象:	専科教員
内容	株式会社アイピーシー動物園事業部と連携、ペットエステティックから、タラソセラピーやアロマセラピーなど、犬の皮膚被毛についてのケアを実務研修指導を生徒指導員が行った。		

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	教職員研修会	連携企業等:	株式会社アイピーシー
期間:	令和4年4月～令和5年3月(月2～3回)	対象:	全教職員
内容	動物愛護法改訂に基づく動物の管理方法、美化の意識づけ、書類管理の合理化、節電のアクションプランなど		

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	ペットエステティック	連携企業等:	株式会社アイピーシー
期間:	令和6年5月～令和7年3月を予定	対象:	専科教員
内容	アイピーシーペットサロン事業が関係各位から求める人材について月1程度のヒヤリングと必要勉強会及び研修を計画、実践する		

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	教職員研修会	連携企業等:	株式会社アイピーシー
期間:	令和5年4月～令和6年3月	対象:	全教職員
内容	動物の管理法、書類の合理化、ほか必要性を感じるテーマで開催予定		

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

当該専門課程の教育にふさわしい教育活動が実施されたことに対する成果を検証し、必要な改善を速やかに行うことで教育水準の向上を図ることが重要である。また、学校教育活動に対しペット産業に関わる企業や保護者などと連携し意見を積極的に汲み取ることで相互理解の促進を図り、教育活動の改善と発展を推し進める。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	・理念・目的・育成人材像は定められているか 等
(2) 学校運営	・目的等に沿った運営方針が策定されているか 等
(3) 教育活動	・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか 等
(4) 学修成果	・就職率の向上は図られているか 等
(5) 学生支援	・学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか 等
(6) 教育環境	・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか 等
(7) 学生の受入れ募集	・学生募集活動は適正に行われているか 等
(8) 財務	・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか 等
(9) 法令等の遵守	・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか 等
(10) 社会貢献・地域貢献	・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか 等
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

問題なく進められている。新卒者に求めるのは、専門職以上に社会人マナー、コミュニケーション力であるため、さらなるレベル向上を維持する。との意見を受け、日々の授業で笑顔と元気な声で挨拶ができるかどうか、慣れない人＝お客様に対してできるかどうかなどの学習目標や目的などを指導していくようにする。また、講師自らが学生に対して挨拶し、コミュニケーションを深めるよう働きかける。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和6年6月1日現在

名前	所属	任期	種別
宇野 哲安	有限会社宇野獣医科 院長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(12年目)	企業等委員
岩本 英司	株式会社アイピーシー 営業部部長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(12年目)	企業等委員
大槻 祐介	株式会社アイピーシー 事業管理部次長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(12年目)	企業等委員
川瀬 理英子	株式会社アイピーシー ペットコミュニティプラザ日進店 副係長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(2年目)	企業等委員
上 舞子	株式会社アイピーシー わんわん動物園主任補佐	令和6年4月1日～令和7年3月31日(3年目)	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL: <https://aichipet.com/wp-content/uploads/koukai/202405gakkouhyouka01.pdf>

公表時期: 令和6年6月20日

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程 プロトリーマ科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			ペット一般教養 I	就職セミナー（業界の就活事情、社会人としての心構え、履歴書の書き方、自己分析の方法等）	1後	15	1	○			○		○		
2	○			特別活動 I	スクールフェスティバルや校外学習等を通じて、協調性や課題発見力等を養う。	1通	60	2				○	○	△	○	
3	○			共通基礎	犬との接し方や犬具等道具の扱い方等、犬を扱う上で必要となる基本的な習性や生理等について学ぶ。	1前	60	2	△			○	○	△	○	
4	○			各科実習	所属する部科に関わらず、ペット美容、しつけ訓練、動物看護、飼育繁殖の基礎を学ぶ。	1前	60	2	△			○	△	○	○	○
5	○			動物形態機能学 I	主に犬猫を中心に動物の体の構造、筋骨格系等の機能を理解する。さらに解剖学用語を習得し生命現象を理解する。	1前	30	2	○			○			○	
6	○			動物感染症学 I	病原体になりうる微生物の感染予防法を理解し、動物の健康維持に努める。	1通	30	2	○			○			○	
7	○			動物健康管理	健康な犬猫に必要な日常ケアと適正飼育法について理解し、個体に合った適正飼育に努めるよう飼主指導に活かす。	1前	15	1	○			○			○	
8	○			動物医療関連法規 I	動物愛護及び管理に関する法律における責務と規制事項を理解し、動物福祉と人との共生の観点から関連法を学ぶ。	1前	15	1	○			○			○	○
9	○			動物行動学	犬猫の基本的な行動様式と学習方法を知る。又、犬種ごとの特徴、沿革などを知ることによって犬種ごとの対応方法などについても学ぶ。	1前	30	2	○			○			○	○
10	○			伴侶動物 I	犬以外の伴侶動物、エキゾチックアニマルや猫の生理と生態から適正飼育法及び主な疾病について理解する。	1後	30	2	○			○			○	
11	○			専科講義	犬猫のグルーミング基礎知識を学ぶ	1後	15	1	○			○			○	
12	○			インターンシップ	連携する企業であるわんわん動物園やペット美容室等で実務研修を行う。	1通	30	1				○		○	○	○

(文化・教養専門課程 プロトリーマー科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
13	○			飼育管理実習Ⅰ	わんわん動物園が保有する多種・多頭数の生体の飼育管理能力と専門的技術の基礎力を増強する。	1通	90	3			○	○	○			○
14	○			動物飼育実習Ⅰ	わんわん動物園から生体提供を受けた担当犬に対する衛生管理を動物園業務と直結した指導教育に取り組む。	1前	45	1			○	○	○			○
15	○			動物飼育実習Ⅱ	今の時代にあった展示動物の管理について、お客様の視線を意識した日常のケア等を通じて生体を扱う基礎力を養う。	1前	90	3			○	○	○			○
16	○			動物飼育実習Ⅲ	1頭1頭の担当犬に対し、日常のケア、体重コントロール、備品管理の3項目に対し、実務レベルでの管理能力育成を目指す。	1後	90	3			○	○	○			○
17	○			専科実習	企業と連携し、犬のベーシック、グルーミングテクニックに関わる授業での多種多頭数の生体を、学生1人あたり30種を経験させる事を目標とする	1後	255	8			○	○	○			○
18	○			ペット一般教養Ⅱ	就職セミナー、社会人準備、経営組織等についての概説	2通	30	2	○			○		○		
19	○			特別活動Ⅱ	主な学校行事である球技大会、スクールフェスティバル、ゼミ発表会、校外イベント活動等の企画運営又は協力。	2通	60	2			○	○	△	○		
20	○			ゼミナール	卒業研究を通じてプレゼンテーションスキルを身につけ、表現力向上を図る。	2通	30	2	△	○		○		○		
21	○			課題研究	卒業研究及び卒業論文の作成	2通	45	3	△	○		○		○		
22	○			トリミング学	カッティング方法や犬別の概論など専門的に学ぶ	2通	15	1	○		△	○		○		
23	○			基礎接客対応	トリミングサロンでの接客方法を専門的に学ぶ	2通	15	1	○		△	○		○		
24	○			ベーシックテクニック	基本的なグルーミング及びケア方法の応用を学ぶ	2通	150	5			○	○		○		
25	○			グルーミングテクニック	基本的なトリミング方法の基礎を学ぶ	2通	60	2			○	○		○		

(文化・教養専門課程 プロトリマー科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
26	○			トリミングテクニックⅠ	カッティング方法、時間短縮など意識して専門的に学ぶ	2前	240	8			○	○		○		
27	○			トリミングテクニックⅡ	カッティング方法、時間短縮など意識して1人1頭を目標に専門的に学ぶ	2後	120	4			○	○		○		
28	○			アドバンステクニック	ペットカットスタイルのアレンジなどから、その犬にあったカットスタイルを作製するセンスを磨く	2後	150	5			○	○		○		
29	○			エステティックテクニック	ペットエステティックの知識やテクニックを専門的に学ぶ	2通	30	1			○	○		○		○
合計							29	科目	73 単位 (単位時間)							

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：	2年以上在学し、総授業時数の3分の2以上の履修を前提に各授業科目の成績評価に基づく課程修了の認定を受けた者	1学年の学期区分	2期
履修方法：	原則的に、教育課程表に定められている年次で履修する。	1学期の授業期間	22週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。